

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	168	世界のウチナーネットワーク強化推進事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）		4-(2)-ア-①		
			国内外のウチナーンチュとの絶え間ない交流				
担当部課名	文化観光スポーツ部 交流推進課	事業実施（予定）年度	H29～R13 年度		沖縄振興基本方針 該当箇所		
事業内容	「世界のウチナーンチュの日」が制定されたことを踏まえ、同記念日の定着化に向けた取組みを推進することで、ウチナーネットワークの継承・発展・強化を図る。具体的にはSNSやWEBサイト及び各種メディアを活用した周知広報活動等を展開し、併せて、世界を舞台に活躍するウチナーンチュを招聘したトークイベントや、移民の歴史を題材とした演劇公演及び移民の歴史等に関する出前講座、並びに海外県人会イベントへの芸能指導者派遣等を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度（ 年度）						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】	予算の状況	(a) 当初予算額	R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	R5年度（繰越）	R6年度
		(b) 予算現額	290,668		41,947		35,115
		(c) 増減額 (b-a)	290,668	0	41,947	0	35,115
		(d) 前年度繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計 (b+d)	290,668	0	41,947	0	35,115
		B. 執行済額	290,592		39,275		33,357
		うち交付金充当額	232,473		31,419		26,686
		C. 次年度繰越額	0		0	0	0
		執行率 (%) (B/A)	100.0%		93.6%		95.0%
		予算の状況の説明	本事業はH29年度からスタートしており、執行状況も毎年度90%超で順調に執行している。				
活動目標（指標）及び進捗状況	R6活動目標（指標）		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	①「世界のウチナーンチュの日」のイベント実施	目標	イベントの実施	イベントの実施	イベントの実施	イベントの実施	
		実績	イベントを実施した	イベントを実施した	イベントを実施した	イベントを実施した	
	②各種広報媒体を活用した「世界のウチナーンチュの日」の広報活動の実施	目標	広報活動の実施	広報活動の実施	広報活動の実施	広報活動の実施	
		実績	広報活動を実施した	広報活動を実施した	広報活動を実施した	広報活動を実施した	
	③県内や海外の若者を中心とした次世代討論会を開催する。	目標	-	-	次世代討論会の実施	-	
		実績	-	-	次世代討論会を実施した	-	
	④世界のウチナーネットワークの多面的な活用により持続可能な発展を目指す取組を実施する。	目標	-	-	-	ビジネス交流や外国人材マッチング	
		実績	-	-	-	ビジネス交流や外国人材マッチングに取り組んだ	
	⑤「世界のウチナーンチュの日」に関連して海外県人会が主催するイベントに、沖縄からの芸能指導者を派遣する。	目標	指導者の派遣	指導者の派遣	指導者の派遣	指導者の派遣	
		実績	指導者を派遣した	指導者を派遣した	指導者を派遣した	指導者を派遣した	
	⑥学校等における出前講座の実施及び講座等の実施を担う講師の養成	目標	出前講座の実施及び講師の養成	出前講座の実施及び講師の養成	出前講座の実施及び講師の養成	出前講座の実施及び講師の養成	
		実績	出前講座及び講師の養成を行った	出前講座及び講師の養成を行った	出前講座及び講師の養成を行った	出前講座及び講師の養成を行った	
進捗状況説明	本事業では、10月30日「世界のウチナーンチュの日」を中心にイベントを開催した。 ①「くちの杜100年プロジェクト（音楽祭）」内にブース出展し世界のウチナーンチュの日をPRするイベントを実施した。 ②SNSやホームページ等を活用して、ウチナーンチュの日の広報活動を実施した。 ③実施なし ④ボリビアから専門家を招聘し、南米とのビジネス交流の可能性を調査した。在日外国人に沖縄での就労についてのアンケート調査をした。 ⑤アメリカ及びカナダへ沖縄文化芸能指導者を派遣した。 ⑥小中学校及び高校等において出前講座を実施したほか、指導者養成講座も実施した。						

成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (〇〇年度)
			①来場者に対し、世界各地に存在するウチナーンチュへの興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目標		80%	80%
	実績		99%	95%	95%		
②世界のウチナーネットワークWEBサイトアクセス数	目標		-	26,000件	31,015件		
	実績		-	27,054件	32,648件		
③参加者に対し、ウチナーネットワークの継承・発展について興味・関心が高まったか(80%以上)についてアンケートにより検証する。	目標		-	80%	-		
	実績		-	100%	-		
④世界各地に存在するウチナーンチュに対する興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目標		-	-	80%		
	実績		-	-	100%		
⑤派遣先の県人会における沖縄の文化芸能に対する興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目標		80%	80%	80%		
	実績		100%	98%	98%		
⑥年間受講者数	目標		-	500人	500人		
	実績		-	1,349人	860人		
⑥-2受講者に対し、沖縄の移民の歴史、世界各地の県系人について理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目標		80%	80%	80%		
	実績		100%	81%	81%		
達成状況説明	①は、アンケートの結果、95%が世界各地に存在するウチナーンチュへの興味・関心が高まったとの回答し、目標を達成した。 ②は、WEBアクセス数が32,648件となり目標を達成した。 ③は、令和7年度実施なし ④は、アンケートの結果、100%が世界各地に存在するウチナーンチュに対する興味・関心が高まったと回答し、目標を達成した。 ⑤は、アンケートの結果、98%が沖縄の文化芸能に対する興味・関心が高まったと回答しており、目標を達成した。 ⑥は、受講者数が860人となり、目標を達成した。 ⑥-2は、アンケートの結果、81%が移民の歴史等に対して理解が深まったと回答しており、目標を達成した。						

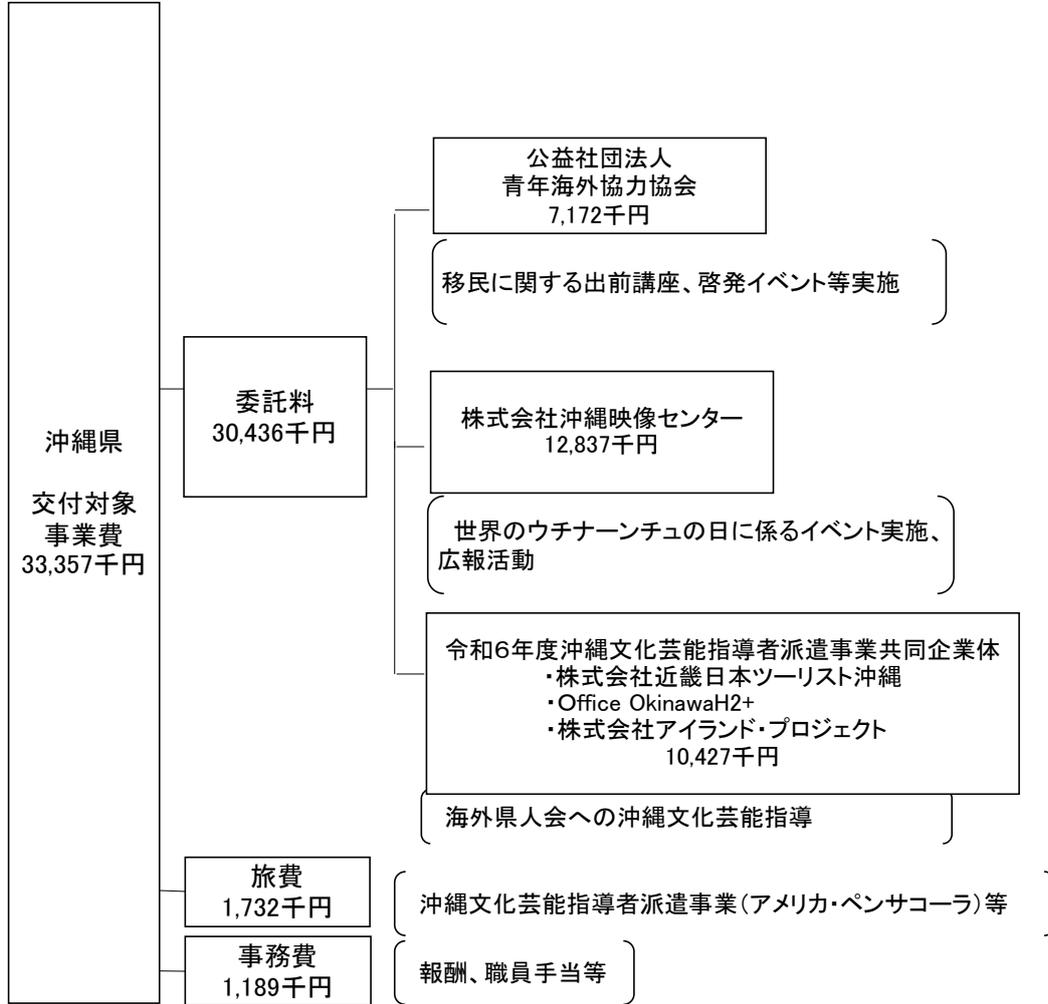
R6-No.168

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
		・10月30日の「世界のウチナーンチュの日」の認知度が未だ低い状況である。
今後の取り組み方針		
・10月30日の「世界のウチナーンチュの日」が定着するよう、啓発イベント、啓発パネル展、映像制作・メディア発信を行う。		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
33,357	33,357	26,686	6,671	0	0	0



資金 使途の 流れ、 点検、 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○費目、使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	181	国際性に富む人材育成事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	4-(2)-7-②			
担当部課名	教育委員会 県立学校教育課	事業実施 (予定)年度	H24~R13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所			
事業内容	世界の多様な地域への長期海外留学、交流先や目的について焦点化した短期海外研修、ICTを活用した海外生徒とのオンライン国際交流事業を実施し、高い専門性を備えた世界で活躍するグローバル人材の育成及び多文化共生型社会の基盤づくりを図る。 ・長期海外留学R7年度派遣生の選考及び事前研修の実施 ・短期海外研修の実施 ・アジア高校生オンライン国際交流プログラム						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】			R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	76,384		129,313		157,357
		(b) 予算現額	76,384		129,313		155,857
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	▲1,500
		(d) 前年度繰越額					
	A. 計(b+d)		76,384	0	129,313	0	155,857
	B. 執行済額		71,242		125,986		152,291
	うち交付金充当額		56,993		100,788		121,833
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		93.3%		97.4%		97.7%
予算の状況の説明		執行率は97.7%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R6活動目標(指標)		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	沖縄県高校生の海外派遣(長期留学派遣者数)	目標	—	—	20人	20人	
		実績	—	—	20人	21人	
	沖縄県高校生の海外派遣者数 ・短期海外研修 (R3、4は代替研修参加者を含む)	目標	214人	214人	84人	145人	
		実績	—	206人	79人	98人	
沖縄県高校生オンライン国際交流参加者数	目標	—	100人	200人	200人		
	実績	—	86人	230人	225人		
進捗状況説明	・長期留学派遣者数の目標値20名を上回ることができた。 ・短期海外研修については、派遣者数の目標値を下回る結果となった。 ・沖縄県高校生オンライン国際交流事業においては、参加希望者数が大幅に増えた結果、目標値を超える生徒が参加した。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (7年度)
	長期海外留学参加者 アンケート調査の実施(参加者満足度、留学意識向上)	目標			80%	80%	
		実績				該当なし	100%
	短期海外留学参加者 アンケート調査の実施(参加者満足度、留学意識向上)	目標			80%	80%	
		実績				98.30%	75%
	沖縄県高校生オンライン国際交流事業参加者 アンケート調査の実施(参加者満足度、留学意識向上)	目標			80%	80%	
		実績				86.5%	66%
	[R7成果目標]長期海外留学参加者 アンケート調査の実施(参加者満足度、留学意識向上)	目標					90%
	[R7成果目標]短期海外留学参加者 アンケート調査の実施(参加者満足度、国際的な視野の拡大、異文化理解への深まり)	目標					90%
	[R7成果目標]沖縄県高校生オンライン国際交流事業参加者 アンケート調査の実施(参加者満足度、留学意識向上)	目標					90%
達成状況説明	短期海外研修においては、4つのプログラムを実施している。その中で専門高校生を対象とするプログラムは、産業振興に寄与することを主たる目的としているため、当該プログラムが「留学意識の向上」に直結するとは言い難い状況である。以上のことより、令和7年度短期海外留学参加者の成果目標を上記の通り変更することが適切であると考えます。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>【長期留学】 世界的な物価高騰及び円安の影響により、令和7年度の長期留学派遣者数は、目標値の50名を大きく下回る24名となった。 【グローバル・リーダー育成海外短期研修】 ①大学での講義、ホームステイ先での意思疎通が十分にできていない生徒が見受けられた。 ②現地使用言語(英語科中国語)の運用能力の低さもあるだろうが、積極性に欠ける生徒が少数見受けられた。 ③他の研修と重なり、事後研修に参加できない生徒がいた。 【アジア高校生オンライン国際交流】 本事業も3年目となり、参加希望者が大幅に増加し、ディスカッションを伴うコースにおいては、志望動機、英語力等で選考を行った。</p>	<p>【長期留学】 ・世界的な物価高騰や次年度予算の見通しのもと、次年度の目標派遣者数を慎重に検討する必要がある。 ・各国の研修プログラムの費用を参考に、より多くの派遣者数を出せるよう検討する必要がある。 【グローバル・リーダー育成海外短期研修】 ①選考過程である程度の語学力を診断する必要がある。 ②現地言語力のみならず、各プログラムに対する動機や積極性を評価できる選考の在り方の検討が必要となる。 ③募集の段階で全研修(事前～事後研修)の参加義務を強調する必要がある。 【アジア高校生オンライン国際交流】 ディスカッションを伴うコースの参加者数が増加したため、同コースの適切な参加人数を今後委託業者と検討する必要がある。</p>

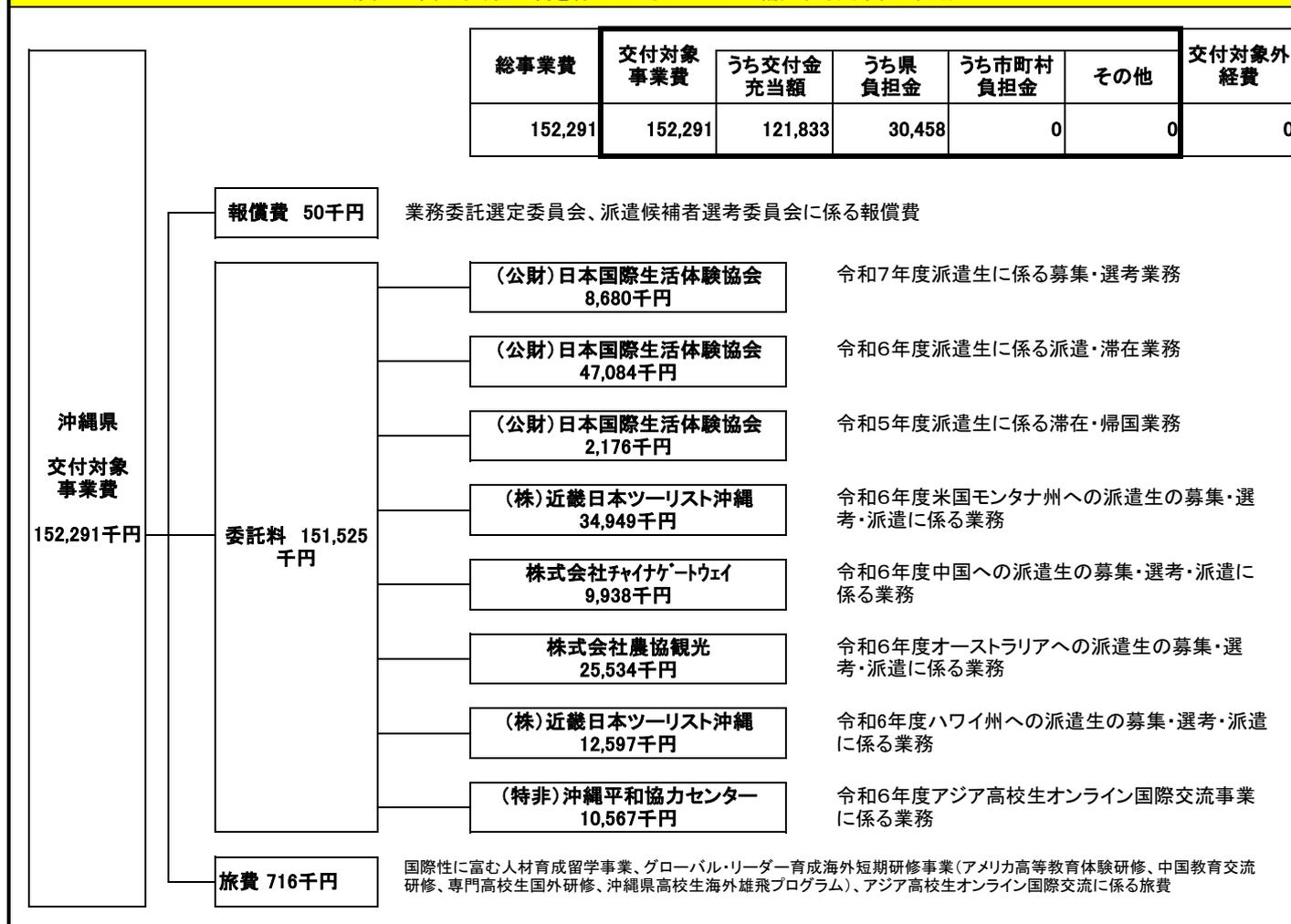
今後の取り組み方針

【長期留学】
限られた予算で、なるべく多くの派遣者数を出せるよう、派遣先国の選定をはじめ、委託業者と慎重に協議する。

【グローバル・リーダー育成海外短期研修】
①②言語力、積極性を重視した選考を行い、現地研修をより深い学びへと繋げるため、ホームステイや学校生活を想定した英語運用能力をより高める研修や異文化理解についての事前研修の実施する。
③各プログラムの参加者全員が全研修に参加できるよう、募集要項の文言の見直しを行う。
④戦後80周年に伴い、平和教育にも力を入れていく。

【アジア高校生オンライン国際交流】
①ディスカッションを伴うコースの受入れ人数の増加が可能か委託業者と協議のうえ、募集をかけていく。
②戦後80周年に伴い、平和教育にも力を入れていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流し、点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

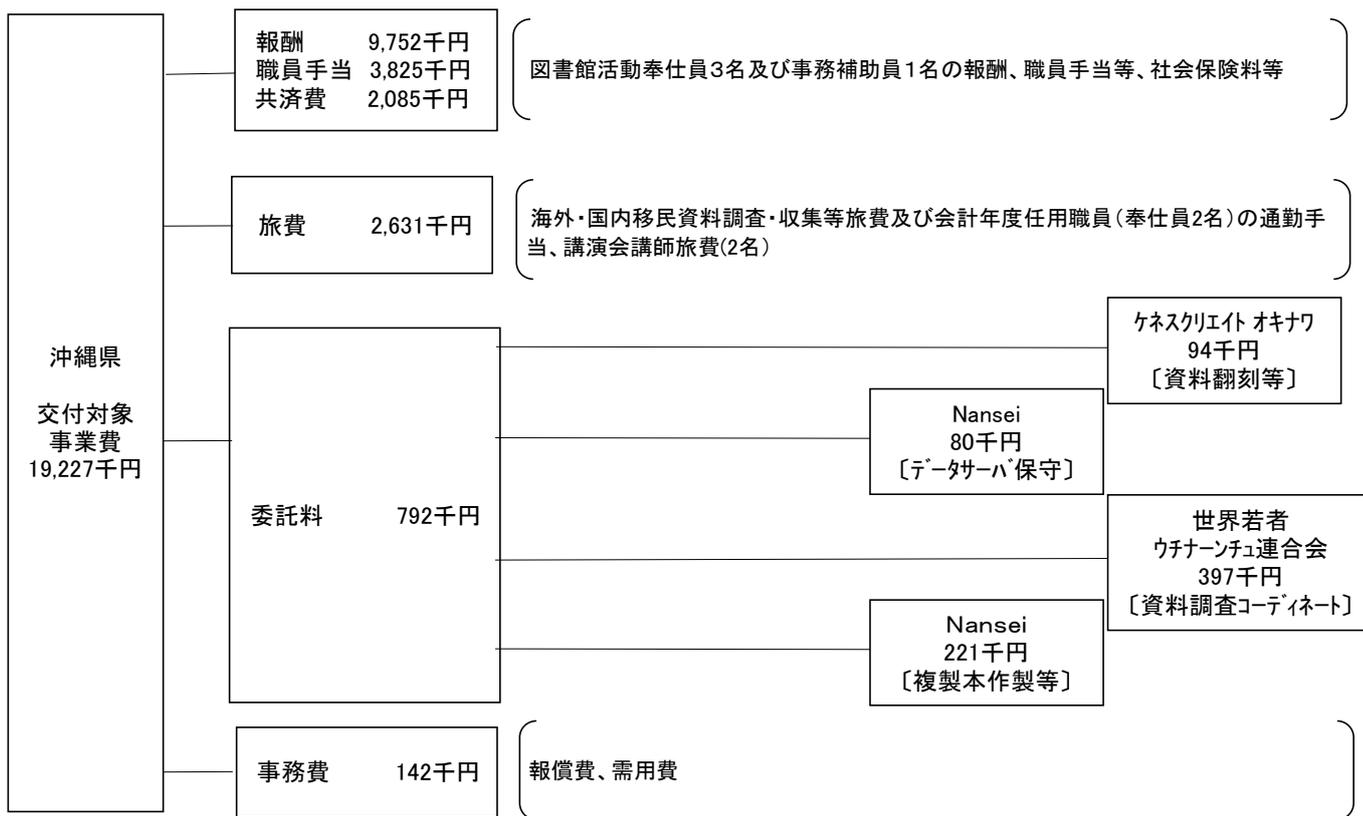
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	186 「琉球・沖縄の知と心」国際発信事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	4-(2)-ア-①				
			国内外のウチナーンチュとの絶え間ない交流				
担当部課名	教育委員会 生涯学習振興課（図書館）	事業実施（予定）年度	R1～R13 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)		
事業内容	海外・国内での資料収集、移民ルーツ調査を実施する。また、郷土資料企画展、展示関連講演会を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度（ 年度）						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】		R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	R5年度（繰越）	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	20,629		19,588		18,420
		(b) 予算現額	20,629		19,588		19,632
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	1,212
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計 (b+d)	20,629	0	19,588	0	19,632
	B. 執行済額		18,848		18,212		19,227
	うち交付金充当額		15,079		14,569		15,382
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率（%）(B/A)		91.4%		93.0%		97.9%
予算の状況の説明		・執行率は97.9%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標（指標）及び進捗状況	R6活動目標（指標）		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	移民ルーツ調査の実施	目標	50件	150件	150件	150件	
		実績	61件	513件	621件	217件	
	移民資料収集実施地域（R3まで移民資料の収集点数）	目標	100点	1地域	1地域	1地域	
		実績	151点	1地域	1地域	1地域	
	移民関係講演会の実施	目標	3回	2回	1回	1回	
		実績	3回	2回	2回	2回	
	移民関係展示の実施（R3まで沖縄の歴史・文化関連郷土資料企画展示）	目標	36回	2回	1回	1回	
		実績	49回	3回	3回	1回	
進捗状況説明	・移民ルーツ調査については、目標を上回った。 ・移民資料収集実施地域については、ブラジル・サンパウロ州等で資料収集を行った。 ・移民関係講演会は、ブラジル沖縄移民関係講演会を4月及び12月に実施した。 ・移民関係展示は、12月にブラジル沖縄移民の企画展を開催した。						
成果目標（指標）及び達成状況	R6成果目標（指標）		基準値（〇〇年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（〇〇年度）
	資料調査・収集を完了した地域数	目標		1地域	1地域	1地域	
		実績		1地域	1地域	1地域	
	展示・講演会参加者・オンライン展示閲覧者アクセス数	目標		3,100人	3,100人	3,100人	
		実績		17,979人	12,479人	20,646人	
	達成状況説明	・成果目標である「資料調査・収集を完了した地域数」については、ブラジル・サンパウロ州で実施し、目標を達成した。 ・成果目標である「館内展示・講演会参加者・オンライン展示の閲覧者総アクセス数」については、渡航記録データベースの閲覧者数が大きく増加し、目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・沖縄県系移民渡航記録データベースは、手書きの原資料をもとに作成しているが、判読不明のためデータ化できていない箇所がある。</p>	<p>・関係資料を確認し、データの修正を進める必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・データベースの共同開発者(OGSH、ハワイ沖縄系図研究会)と協力し、データベースの正確性の確保に務める。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
19,227	19,227	15,382	3,845	0	0	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は、県財務規則に基づき相見積もり等によって選定したため、妥当であったと考える。</p> <p>○費用、使途については、事業報告書等を検査し、適正であることを確認した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	10	ハワイ東西センター連携事業		新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	4-(2)-ウ-①		
		観光交流、経済交流等の推進					
担当部課名	企画部 科学技術振興課	事業実施 (予定)年度	H26~R13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-7		
事業内容	グローバル化の進展や多様化・複雑化する社会ニーズに対応できる国際的な視野を持った人材を育成するとともに、アジア太平洋諸国とのネットワーク形成を図るため県内社会人等をハワイ東西センター及びハワイ大学大学院へ4名程度派遣する。また、同プログラムの周知広報を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	8,783		11,283		11,283
		(b) 予算現額	8,783		11,283		11,283
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	8,783	0	11,283	0	11,283
	執行 状況	B. 執行済額	8,724		11,169		11,186
		うち交付金充当額	6,979		8,935		8,949
		C. 次年度繰越額	0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.3%		99.0%		99.1%
	予算の状況の説明		・執行率は99.1%であり、概ね計画的に執行できた。				
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R6活動目標(指標)		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	①小渚沖縄教育研究プログラムの周知広報・説明会の開催 ②説明会等参加人数 ③小渚沖縄教育研究プログラム応募人数	目標	—	①3回以上 ②50人以上 ③5人以上	①3回以上 ②50人以上 ③5人以上	—	
		実績	—	①10回 ②105名 ③5名	①11回 ②101名 ③13名	—	
	①小渚沖縄教育研究プログラムの周知広報・説明会の開催 ②説明会等参加人数 ③ハワイ東西センター及びハワイ大学への派遣者数	目標	—	—	—	①3回以上 ②50人以上 ③2~3名	
		実績	—	—	—	①8回 ②112名 ③3名	
	【R2~R3の活動目標】 社会人等をハワイ東西センターへ4名派遣	目標	4名派遣	—	—	—	
実績		3名派遣	—	—	—		
進捗状況説明	小渚教育研究プログラムの説明会を8回開催し、参加人数総計は112名であった。また、同プログラムへの応募者は10名であった。						

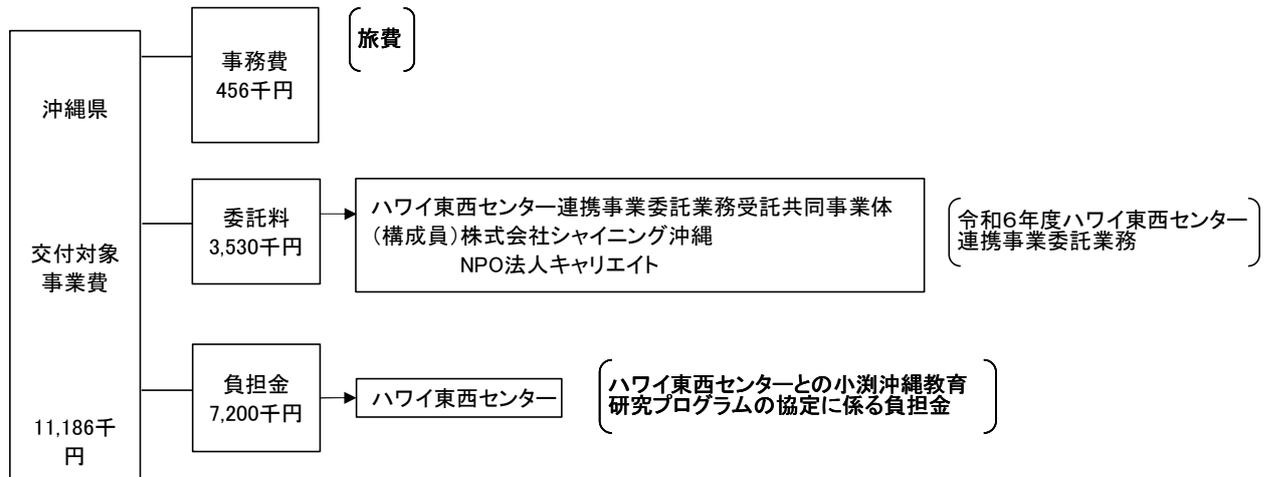
成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)	基準値 (〇〇年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (〇〇年度)	
		目標	—	1名	1名	—	—
	修士課程修了(取得)者	実績	—	0名	2名	—	—
		目標	—	—	—	1名	—
アジア太平洋リーダーシッププログラム修了者または修士課程修了(取得)者	実績	—	—	—	2名	—	
	目標	—	—	—	—	1名	
達成状況説明	【R7成果目標】 アジア太平洋リーダーシッププログラム修了者または修士課程修了(取得)者 アジア太平洋リーダーシッププログラム修了者に1名の該当者がいるため、目標を達成した。 また、R5年8月からハワイ大学へ同プログラムで留学している学生1名がR7年5月に修士課程を修了する予定のため、実績は2名となる見込み。						

R6-No.10

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①ハワイ東西センターへ、ドル建てで支出している負担金(小淵沖繩教育研究プログラムの運営費)が、円安やインフレ等の影響により大幅に変動する可能性がある。 ②昨今の円安と米国国内でのインフレの影響により、個人で留学する場合は莫大な資金が必要となることから、本県における留学へのマインドの低下が懸念される。	①今後も、円安やインフレ等の世界情勢を注視しつつ、同プログラムを長期的かつ安定的に運営していく必要がある。 ②大学院留学等を希望する高い意識を持った本県の学生や社会人等が費用を理由に留学を諦めることがないよう、本プログラムの優位性が伝わるよう広報内容を引き続き工夫する必要がある。
今後の取り組み方針		
①円安の状況や米国におけるインフレの影響等を令和7年度以降も引き続き注視しつつ、ハワイ東西センターと調整し、本プログラムを安定的かつ継続的に運営する。 ②周知広報では、県内外の大学生及び社会人を対象とした説明会の開催、並びに高校生以上を対象とした留学への興味・関心を高めるイベント等の実施のほか、今後も引き続きSNSを活用した広報を実施し、本プログラムを必要としている人材へ確実かつ活効率よく情報が行き届くよう広報を実施していく。加えて、今後は約70名の本プログラム同窓生のネットワークを活用し、周知広報をさらに活性化していく。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
11,186	11,186	8,949	2,237	0	0	0

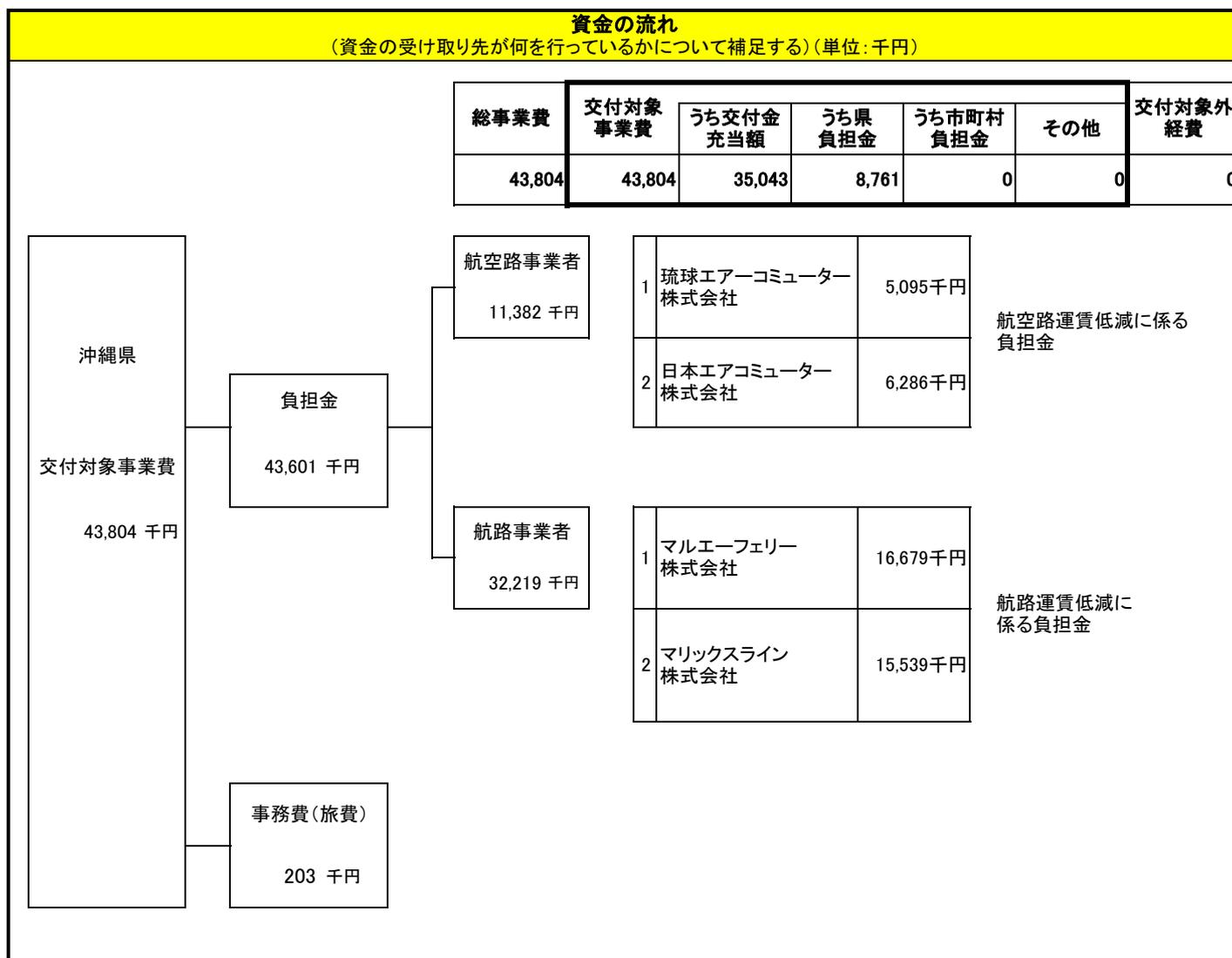


資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、公募によるプロポーザル形式にて提案内容、業務体制、予算規模などを総合的に勘案して選定しており、妥当であると認められる。 ○費用、使途については、金額の確定時に検査を行い、適正であると認められた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	18	沖縄・奄美連携交流促進事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	4-(2)-ウ-②			
担当部課名	企画部 地域・離島課	事業実施 (予定)年度	H28~R13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄の文化を通じた交流 Ⅲ-9-(1)		
事業内容	沖縄-奄美群島間において、両地域の交流を更に促進し、世界自然遺産登録地として一体的に評価されていることを契機に、両地域間の移動しやすい環境を構築するため、航空路4路線及び航路8路線の運賃低減の支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】		R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	74,203		61,998		44,649
		(b) 予算現額	64,167		61,998		46,114
		(c) 増減額(b-a)	▲ 10,036	0	0	0	1,465
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	64,167	0	61,998	0	46,114
	B. 執行済額		60,659		51,319		43,804
	うち交付金充当額		48,527		41,055		35,043
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		94.5%		82.8%		95.0%
予算の状況の説明		・執行率は95%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R6活動目標(指標)		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	運賃を低減した路線における利用者数 航空路:13,751人	目標	19,000人	19,000人	17,545人	13,751人	
		実績	14,668人	20,227人	13,560人	12,047人	
	運賃を低減した路線における利用者数 航路:30,426人	目標	51,000人	51,000人	44,872人	30,426人	
		実績	23,579人	38,808人	45,033人	41,404人	
進捗状況説明	・航空路は那覇と奄美群島を結ぶ4路線、航路においては那覇・本部から奄美群島を結ぶ8航路で事業を実施し運賃低減を実現した。 ・令和6年度における低減した運賃の利用者数は、航路は41,404人(対目標136%)と目標を達成したものの、航空路は12,047人(対目標87%)と目標を達成することができなかった。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (〇〇年度)
	両地域間を旅行(移動)したすべての旅客者数(住民を含めた交流人口) ・航空路及び航路 137,031人	目標		136,350人	115,106人	137,031人	
		実績		111,410人	131,051人	147,113人	
	達成状況説明	・航空路及び航路において、住民を含めた両地域間を旅行(移動)したすべての旅客者数(交流人口)は、147,113人で、目標を達成することができた。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証 ①令和2年度実態調査では、本事業による運賃低減により利用者の負担軽減、消費拡大、リピーター増加等の効果が確認された。 ②令和3年7月に「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が世界自然遺産に登録されたことにより、国内外の関心が高まっている。 ③令和5年8月に鹿児島県及び奄美群島広域事務組合と締結した「沖縄と奄美群島との交流の拡大に係る連携協定」に基づき、両地域のより一層の交流拡大を図る。	①②③引き続き本事業により沖縄－奄美間の移動しやすい環境を確保するとともに、世界自然遺産登録や「沖縄と奄美群島との交流の拡大に係る連携協定」を契機とした交流を促進するため、関係者との協力体制のもと、本事業を周知する必要がある。
今後の取り組み方針	
①②③世界自然遺産登録や「沖縄と奄美群島との交流の拡大に係る連携協定」を契機とし、更なる連携・交流促進を図るため、両地域の自然や観光等のPR等を鹿児島県と連携して実施する。	



資金の流 れ、費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流 れ、費 目	○	支出先の選定方法は妥当か。	○負担金について、事業者に対し、運賃低減に係る減収分を適正に交付した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	187	高校生伝統芸能分野海外就業体験事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	4-(2)-ウ-②			
				沖縄の文化を通じた交流			
担当部課名	教育委員会 文化財課	事業実施 (予定)年度	H24~R13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(1)		
事業内容	郷土芸能に取り組んでいる高校生をハワイに派遣し、伝統芸能を活かした観光産業や歴史的・文化的施設での就業体験をとおりして職業理解を深める。実演家としての技術・知識および国際的な視野を持ち郷土芸能を観光資源として活用できる人材育成に取り組む。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和6年度以降)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】	予算の状況		R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度
		(a)当初予算額	18,215		18,215		16,883
		(b)予算現額	18,215		18,215		16,883
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額					
	A. 計(b+d)		18,215	0	18,215	0	16,883
	B. 執行済額		17,979		18,136		16,663
	うち交付金充当額		14,383		14,509		13,331
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.7%		99.6%		98.7%
予算の状況の説明		・執行率は98.7%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R6活動目標(指標)		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	郷土芸能に取り組んでいる高校生16名をハワイへ派遣する。		目標	—	16名	16名	16名
			実績	—	16名	16名	16名
進捗状況説明		一次書類審査、二次実技・面接審査を通過した16名をハワイへ派遣した。					
成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (R7年度)
	卒業後、生徒が郷土芸能分野、国際的分野及び教育分野に就職を希望したか(60%以上)		目標	—	60%	60%	60%
			実績	—	75%	75%	
	【R4成果目標】 帰国後、生徒が伝統芸能分野、国際的分野及び教育分野に進路を希望するか(60%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。		目標	60%			
			実績	93.8%			
達成状況説明		アンケート「卒業後、郷土芸能分野、国際的分野、教育分野に就職を希望しますか」という質問に対し、75%(16名中12名)が「はい」と回答しており、目標を達成した。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>①現地(ハワイ)において高校生や大学生、県人会の方々との交流の際には、しまくとぅばや英語などコミュニケーションツールとして一定の語学力が要求されるため、事前研修において、語学力やコミュニケーション能力を高める内容の充実化を図る。</p> <p>②生徒が主体的に進路について調べたり考えを深めたりすることで、現地の高校生と進路活動について円滑に意見交換することができると考え、将来における観光産業としての伝統芸能の在り方を考えさせる。</p>	<p>①事前研修において、外国語講師を活用した語学や異文化理解に関する内容を充実させ、自国の文化や歴史について外国語で意見交換する実践的な研修を行う必要がある。</p> <p>②自らの進路において、琉舞や三線等のスキルをどのように磨き、将来的に観光産業として役立てる手段や方法があるのか、検討や発表する機会を事前研修に設ける必要がある。</p>

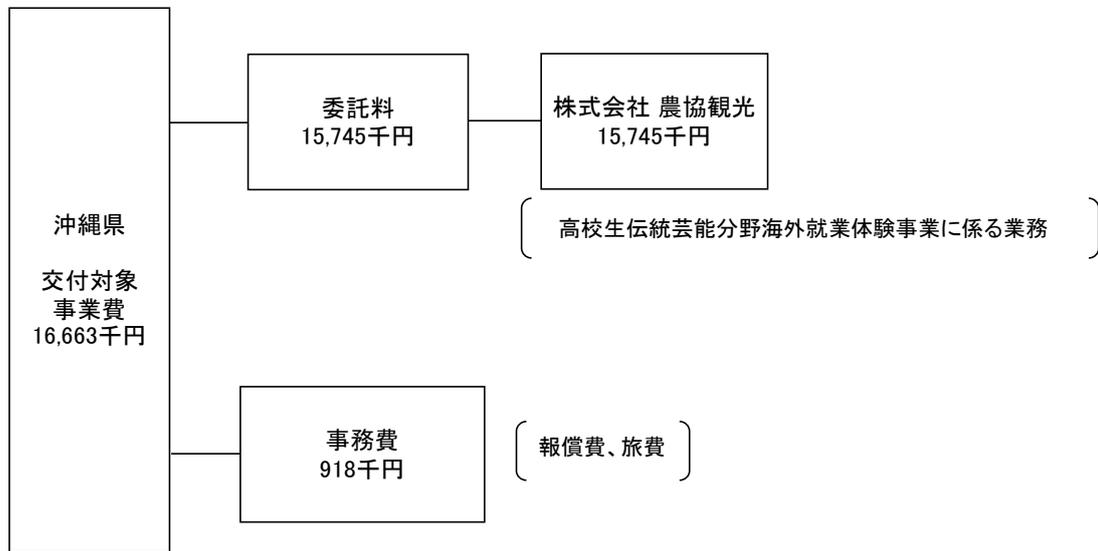
今後の取り組み方針

①現地研修をより深い学びへと繋げるため、披露演目の練習や語学力をより高める研修、観光産業としての伝統芸能についての事前研修を充実する。

②観光産業における伝統芸能分野の在り方について現地の高校生と話し合う機会を設け、職業観を養えるよう本研修を充実する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額				交付対象外経費
		うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	
16,663	16,663	13,331	3,332	0	0	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の用途の点検・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は、企画提案プロポーザルで事業の内容によって選定したため、妥当であったと考える。</p> <p>○予算規模は適正であるが円安や燃料サーチャージの高騰が続くと見直しが必要となる。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	